

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

キリスト者の希望

～教会暦年の最後の月にあたって～

「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところに栄光」(ルカによる福音書19:38)

11月は教会における逝去者記念の季節です。この時に私たちは天に召された兄弟姉妹の主にある光明と平安を祈るとともに、私たち自身が信仰の先達に倣って生きる決意を新たにす時といえます。そしてこのキリスト教における逝去者記念にあたってのモットーとも言うべきものは「メメント・モリ(死を覚えよ)」という言葉です。

これは暗い絶望的な嘆きでも、「どうせ死ぬ身なのだから、今を楽しめ」と言った刹那的な言葉でもありません。「残された日々を数えることを教え、知恵の心を与えてください(詩90:12)」という、今という時を大切に積極的に生きることを促す言葉です。

しかし「メメント・モリ(死を覚えよ)」がこうした積極的姿勢を生む前提として、まず私たち自身に主イエス・キリストを通して与えられた永遠の命に対する信仰と希望、感謝と喜びがなければならぬでしょう。

教会暦年の最後の月

ところで11月は教会にとってもう一つの意味があります。それは一般のカレンダーより一足早く、教会の暦の一年の最後の月を迎えることになるということです。

そしてこの教会暦年の最終主日には「主

イエス・キリストが王の王、主の主としてあらゆるものを回復されること」を覚えて、そこに希望を置いて祈りをささげます。

即ち、この世の終りの時、再臨の主キリストに思いと希望を馳せるということです。

先に申した「メメント・モリ」とは、どちらかと言えば個人的な人生の終りが念頭に置かれているように思われます。一方、再臨の主キリストに思いを馳せるとは、世界の全ての終りまでを見渡すということです。

そしてその先に神が用意して下さっている「神の国」に対する希望に根差して、今、私たちに主から託されている使命に生きようとすると言えます。

キリスト者の希望

教会問答の最後は「キリスト者の希望」についての問答です。

34、問 キリスト者の希望は何ですか。

答 すでに始められ、キリストの再臨によって完成される神の国です。神はこれを全人類のために備えておられます。主キリストの再臨に思いを馳せるということは、世界や宇宙という壮大な視野の中で自分自身や世界を見つめ直すことです。

そして福音の宣教は初代教会の時代から、この視点に立ってなされてきたのでした。

私たちが抱くべき希望としては「個人的な復活」と「神の国の到来」のどちらもが大切であり、そして今月はその両方に思いを馳せる時であると言えます。逝去者記念また教会暦年最後の月にあたって、この希望をさらに新たにしたいと思えます。